

生き方を学んだ



(S41) 今村 房雄

関西大学体育会レスリング部創部60周年おめでとうございます。我々昭和40年組が卒業して41年、もうこんなに月日が過ぎたのかと感慨無量でもあります。

歴史に残る記念誌に何を書けばよいものかと改めて、30年誌、50年誌を読みました。もう記録に残すことはほとんどありません。しかし、ここで終わりでは、昭和40年組みとして根性がないと叱られそうなので、外も、中も白くなった頭をフル回転してがんばろうと思います。

この10年間は悲しいことがいくつもありました。まず主将早淵の死であります。彼は大学ではレスリングはやらないと他のものと同じく一般学生として関大の門をくぐり、その後、先輩たちの強い要請の元、春季リーグ戦の前に道場に現れたと記憶しています。マットに上がれば野獣のごとく相手に立ち向かう、心の優しい男でした。

卒業後4年ぐらい経って再会し、同じ労務管理の仕事をやっていたので何度か会いましたが、その後会ったときはミュージックテープの会社を立ち上げていました。その後順調に会社を發展させ、国内でも有数のテープ会社に仕上げ、在京の後輩たちと年に何回かの食事会を楽しみにし、OB会を盛り上げていた彼が急な事故で亡くなったと聞いたときは本当に驚きました。今もお母様が『隆弘、何をしてるの、早く起きなさい』と何度も繰り返されている声を思い出します。

また、2年前に松田(田邊)が亡くなりました。彼とはフライ級のライバルであり、梅田東通り商店街の不良友達でもありました。彼もまたオーナーとして会社を發展させ、経済人としても活躍し、大阪国体を立派に成功させました。今年の夏も全国少年レスリング大会で息子さん、お孫さんにお会いしました。やがて関大に入り、レスリング部で活躍されることを希望しているのは私だけでしょうか。

この歳になれば、寿命に近づくことは仕方がないことですが、できるだけ五体元気に暮らしたいと願っています。同期五人の方々20年は、頑張りましょう。

残り誌面で、思い出を綴りましょう。

1年生—『先輩、今日はチョコチンやしまひょか。』懐かしい言葉である。

卒業された先輩たちがこられないとき、(このおっさんたちは、他にやることのないのかいとおもっていた。)トレーニングの代わりにやったソフトボール。何故かチョコチンと呼んでいたのを覚えている。楽しかったな。光富、西本さんが上手で、早淵、西山が投打とも好敵手であった。伴キャプテンは…。

地獄の長期合宿は、すでにいろいろと書かれておりますが、楽しいこともあった。その一は買い物である。豊津、吹田の市場へ行き、まず腹ごしらえをやる。残りが食事分である。これは1年生の特権？(ピンハネ、人情、買い方、売り方等人生に役立つことを覚えた気がする。)その二は、山本定夫先輩の関係筋の女学生が差し入れや、手伝いに来てくれたこと。山長先輩は本当に良くもてたな。

2年生—この頃の練習、合宿は本当にきびしかった。西脇、森川さんを筆頭に、木田さん、山本さん、三好さん、福家さん、松浪さん、高田さん他が毎週毎週こられ、現役相手にスパーリングをやるわ、やるわ。道場のビニールマットが汗で水溜りができるほどであった。私は特に、西脇さんに可愛がられて、雑巾をかませられるやら、小一時間ぐらいはマットに壁におさえられていた。しかし、この結果として新人戦で現役唯一の賞状を手にし、今でも実家に飾っている。また、この心身の鍛錬が後の12連勝、私の人生の生き様となっているのは事実である。